

## ダンス必修化に伴う教員の指導不安の定量的分析

山口 莉奈<sup>1)</sup> 正田 悠<sup>1)2)</sup> 鈴木 紀子<sup>3)</sup> 阪田 真己子<sup>1)</sup>同志社大学大学院文化情報学研究科<sup>1)</sup> 日本学術振興会<sup>2)</sup> 帝塚山大学<sup>3)</sup>

## 1. はじめに

平成 20 年 3 月に告示された中学校学習指導要領によって、中学校保健体育の分野においては従前では選択単元であった「ダンス」が必修化された[1]. 中村 (2009) は、ダンス必修化に伴って、多くの教員が指導力不足に対して不安を抱くであろうと述べている[2]. また、高等学校学習指導要領改訂に伴い男女共習となった家庭科では、浜島・武藤 (1997) が男女の能力や技術の差、指導法に不安を抱いた教員が多いことを報告している[3]. すなわち、学習指導要領の改訂によって、授業形態の変化や、指導法に対して、教員はなんらかの不安を感じているといえる. このような学習指導要領改訂によって生じた不安に対する解決策を講じるためには、不安の定量化と不安構造の明確化が必要であると考えられる. こうした背景のもと、筆者らはダンス指導において生じる課題や困難点を「ダンス指導不安」と定義し、ダンス授業を実施している現職教員を対象としたダンス指導不安の定量的研究を行っている.

山口・正田・鈴木・阪田 (2015) [4]は、日本ストリートダンススタジオ協会主催の現職教員・教職課程履修中の大学生向けリズムダンス研修会 (以下: NSSA 主催リズムダンス研修会) に参加している現職教員を対象に、ダンス指導不安についてのアンケート調査を実施した. アンケート内容はダンス指導不安の有無やその内容を問うもので、自由記述形式の回答に対して KHCoder[5]を用いた分析を行った. その結果、教員が抱いているダンス指導不安は「知識不足に対する不安」、「経験不足に対する不安」、「授業構成に対する不安」、「生徒に対する不安」、「指導法に対する不安」という 5 つの要素から成り立つことを明らかにした. 本研究では、この 5 つの要素に基づいて質問項目を作成することで、実際に教員が抱いているダンス指導不安の要素が再現されるかを調査する. また、それぞれの要素が教員のどのような属性 (年齢・ダンス指導経験の有無等) と関わるのかを明らかにする.

## 2. 方法

2015 年 5 月に福井県と神奈川県で実施された NSSA 主催リズムダンス研修会の参加者 109 名を対象に、質問紙調査を実施した. このうち、有効回答数は 83 名であった. 83 名のうち男性は 51 名、女性は 28 名、無回答 4 名で、平均年齢は 34.09 ( $SD = 8.32$ ) 歳、平均教員歴は 8.94 ( $SD = 8.30$ ) 年であった. 質問紙は山口他[4]において認められた 5 つの不安要素のそれぞれについて 8~10 項目の質問項目を作成し (合計 49 項目)、ダンス指導不安尺度の原案として使用した. 質問紙の回答方法は、各質問項目に対して「1: 全く不安に感じない」から「7: とっても不安に感じる」までの 7 段階評価とした. 全質問項目において、1 項目でも無回答のものがあれば無効回答とし、分析対象から除外した.

## 3. 結果と考察

因子分析を行う前に、項目分析および GP 分析を行った. 項目分析では偏りのある項目 (どちらかの極に全体の 80%以上が集中するもの) に該当するものはなかった.

探索的因子分析によって、教員の不安の背景にある 4 因子を確認した (ミンレス法, 独立クラスター回転による: 表 1). 因子 1 は、Q5「現代的なリズムダンスの歴史やリズムダンス導入の背景に関する知識」や、Q7「ステップの組み合わせ方」というような、すなわち教員自らの知識を用いて考えることに対する不安の項目である. 同様に、因子 2 は Q46「生徒にうまく伝える説明」や、Q31「生徒のニーズにあった振り付けを考えること」という生徒に関する項目の因子負荷量が高く、因子 3 は Q13「自分自身が見本になること」というような自分自身のダンス能力に関する項目の因子負荷量が高かった. さらに、因子 4 は Q17「経験者の生徒から指摘を受けること」などといった生徒からの指摘に対する項目の因子負荷量が高かった.

次にそれぞれの因子に寄与する属性を探索するため、ステップワイズ法 (AIC に基づく変数減少法) を用いた重回帰分析を行った (表 2). 因子 1 において有意であった説明変数は、「ダンス経験」であり、ダンス経験がない教員は自らの知識に関する不安 (因子 1) をより強く抱くことが示された. 次に、どの説明変数も因子 2 を説明することができないことがわかった. 因子 3 では、「ダンス指導経験」による説明の当てはまりがよく、ダンス指導経験のあ

Quantitative Analyses of the Teacher's Anxiety Triggered by the Compulsory Dance Education

1) Graduate School of Culture and Information Science, Doshisha University

2) Japan Society for the Promotion of Science

3) Faculty of Business Administration, Tezukayama University

る教員は自分自身のダンス能力に関する不安（因子3）を抱くという傾向にあった。さらに、因子4において有意な説明変数は「年齢」と「ダンス指導経験」であり、年齢が高い教員、またダンス指導経験がない教員ほど生徒からの指摘に対する不安（因子4）を抱いているという結果となった。

本研究で抽出した4因子において、因子1は山口ほか[4]で抽出した5つの不安要素のうち、「知識不足に対する不安」と対応するものであると考えられる。同様に、因子2は「生徒に対する不安」, 「指導法に対する不安」, 因子3は「経験不足に対する不安」と対応している。しかし、因子4は生徒からの指摘に対する不安であるため、山口ほか[4]で抽出されたものとは異なる不安要素であると考えられる。また、重回帰分析の結果より、ダンス経験のない教員は知識不足に対する不安を抱いており、ダンス指導経験がない教員は、経験者の生徒からの指摘に対する不安を抱いているということがわかった。

4. まとめ

本研究では、教員がいかなるダンス指導不安を抱いているのかを明らかにするため、現職教員を対象とした質問紙調査を行った。その結果、ダンス指導不安が4因子から構成されることが示された。また、回答者の属性により抱いている不安が異なるということを明らかにすることができた。ダンス経験のない教員は知識不足に対する不安を抱く一方で、ダンス指導経験のない教員は、自分自身の体力や、経験者の生徒から指摘を受けることに対する気恥ずかしさを感じていることが示された。興味深いことに、ダンス指導時の自分自身に関する不安はダンス経験の有無ではなく、ダンス指導経験の有無に起因するものであり、ダンス指導経験がある教員の方がより強い不安を抱くということが示された。

今後、研究対象者数を増やし、性別・ダンス経験・ダンス指導経験などを調整した上で検証を行うことで標準化された質問紙を作成すること、さらには、ダンス指導不安評価尺度を用いて教員のダンス指導不安を把握し、それぞれの不安に応じた、不安解決策の提案を行うことが重要である。

参考文献

[1] 文部科学省：中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房 pp.7-11 (2008)  
 [2] 中村恭子：中学校ダンス必修化の課題-中学校教員を対象とした調査にもとづいて- 順天堂大学スポーツ健康科学研究 第1巻 第1号 pp.27-39 (2009)  
 [3] 浜島京子, 武藤八恵子：新指導要領実施後における高等学校家庭科教員の意識の変化 日本家庭科教育学会誌 第40巻 第3号 (1997)  
 [4] 山口莉奈, 正田悠, 鈴木紀子, 阪田真己子：ダンス必修化に伴う教員の不安構造の分析 日本認知科学会 第32回大会論文集 pp.309-312 (2015)

[5] 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析内容分析-内容分析の継承と発展を目指して- ナカニシヤ出版 (2014)

表1 因子分析の結果

質問項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
Q4 現代的なリズムダンスとその他のダンス(創作ダンスやフォークダンスなど)の違いに関する知識	0.85	-0.06	0.07	0.23
Q3 ステップの名前やその由来に関する知識	0.81	-0.05	0.04	-0.05
Q5 現代的なリズムダンスの歴史やリズムダンス導入の背景に関する知識	0.75	0.12	-0.08	0.10
Q19 自分自身のダンス経験	0.71	0.00	0.14	0.02
Q8 格好よく見えるステップに関する知識	0.67	0.14	0.13	-0.17
Q6 ステップの動き方に関する知識	0.62	0.13	0.16	-0.09
Q11 自分自身のダンスのスキル	0.61	-0.05	0.24	-0.25
Q22 短時間で既成教材の習得と創作活動の両方を行うこと	0.58	0.30	-0.11	-0.01
Q23 カリキュラムの組み方	0.51	0.29	-0.12	0.15
Q7 ステップの組み合わせ方	0.50	0.31	0.09	-0.22
Q14 自分自身の指導スキル	0.46	0.23	0.11	-0.20
Q21 創作活動(生徒が自ら習得してステップをもとに創作を行う学習)の評価基準	0.46	0.35	-0.22	-0.05
Q20 既成教材(全員が同じ振り付けを習得する学習)の評価基準	0.43	0.33	-0.15	0.02
Q15 自分自身が格好よく踊ること	0.41	0.18	0.28	-0.24
Q2 ダンスが苦手な生徒に対するアドバイス	0.38	0.20	0.19	-0.20
Q32 生徒のレベルにあった創作活動の指導	0.07	0.75	-0.04	-0.09
Q46 生徒にうまく伝わる説明	0.02	0.72	-0.01	-0.11
Q31 生徒のニーズにあった振り付けを考へること	0.00	0.72	0.06	-0.26
Q45 リズムに乗り切れない生徒への指導	-0.01	0.69	0.04	-0.08
Q36 生徒が恥ずかしがらずに踊ること	0.02	0.67	-0.08	0.06
Q44 生徒のモチベーションの上げ方	0.01	0.67	0.05	0.01
Q30 生徒のニーズに合った選曲	-0.04	0.67	0.13	-0.18
Q48 経験者と初心者と同時に指導すること	0.05	0.66	0.11	0.16
Q41 創作活動においてオリジナリティのある振り付けを引き出す言葉かけ	0.14	0.64	0.01	-0.09
Q43 経験者に対する興味のひかせ方	0.13	0.61	0.03	0.02
Q35 生徒が自分らしさを表現すること	0.08	0.61	-0.09	0.12
Q29 生徒のレベルにあった振り付けを考へること	0.11	0.59	0.06	-0.23
Q34 生徒が協調性を大切にしながら創作活動を行うこと	0.02	0.59	0.10	0.22
Q49 経験者と初心者それぞれに応じたアドバイス	0.19	0.58	0.10	0.07
Q39 生徒が授業で習得したステップを用いて創作活動を行うこと	0.11	0.57	0.06	0.22
Q38 生徒がダンスを楽しむこと	-0.05	0.56	0.15	0.30
Q28 集団指導の方法	0.12	0.54	0.03	0.14
Q26 経験のない生徒主体の授業にしてしまうこと	0.13	0.50	0.03	0.17
Q42 ダンスの楽しさを教えること	0.05	0.50	0.30	0.00
Q40 ロだけの指導になること	0.08	0.49	0.27	0.17
Q25 経験のある生徒主体の授業にしてしまうこと	0.14	0.48	-0.05	0.29
Q33 生徒に基本的なステップを習得させること	0.13	0.48	0.20	0.03
Q37 生徒がお互いの発表を鑑賞すること	0.10	0.44	0.03	0.35
Q47 自分自身が恥ずかしがらずに生徒を指導すること	-0.18	0.42	0.48	0.27
Q24 導入での生徒のひきこみ方	0.35	0.41	0.04	0.12
Q27 テストの内容	0.29	0.40	-0.01	0.26
Q9 自分自身がダンスを楽しむこと	0.05	-0.03	0.79	0.13
Q10 自分自身がリズムをとること	0.22	0.09	0.60	-0.09
Q13 自分自身が見本になること	0.25	0.20	0.53	-0.24
Q12 自分自身が振り付けを覚えること	0.29	0.08	0.51	-0.19
Q1 選曲の仕方	0.32	0.16	0.34	0.02
Q16 自分自身のからだの使い方	0.30	0.26	0.31	-0.19
Q17 経験者の生徒から指摘を受けること	0.07	0.21	0.35	0.44
Q18 自分自身がダンスの授業をおこなう体力	-0.17	0.10	0.33	0.34

表2 各因子における重回帰分析の結果 (標準化係数)

目的変数	説明変数	β	t 値	R <sup>2</sup>	調整済み R <sup>2</sup>
因子1	ダンス経験なし	.89	2.13 *	.09	.06
因子2	該当なし				
因子3	ダンス指導経験あり	.62	2.71 **	.08	.06
因子4	年齢	.33	2.77 **	.17	.13
	ダンス経験あり	.59	1.49		
	ダンス指導経験なし	.83	3.45 ***		

\* p < .05, \*\* < .01, \*\*\* p < .001